

ぱすてる

男女共生を考える

～蓮田スタンダード 未来へ向けての発信～



お寄せください

「ぱすてる」では、今後載せてもらいたい内容、今回の内容に対するご意見、ご感想、男女共同参画全般に関するご意見などお待ちしております。

特集 ■■■■■■■■■■

黒浜西中学校防災キャンプ
ぱすてる編集員による座談会

蓮田市男女共生情報誌

発行：蓮田市役所総務部庶務課

〒349-0193 蓮田市大字黒浜2799-1 ☎048-768-3111

男女共生を考える～蓮田スタンダード未来へ向けての発信～

おかげさまで『ぱすてる』は20年、第20号の発行を迎えることができました。男女共生社会の実現を目指し、様々な取組が行われてきた蓮田市の事業の1つとして誕生した、市民の目線で、市民が編集する情報誌『ぱすてる』。多くの方々のご意見やご協力をいただきながら長い年月取り組み続けることができました。心から感謝申し上げます。

20年の時の流れの中に、男女共生社会に対する意識の変化を見ることができます。特に、ここ数年取り組んできました学校教育の中に見る男女共生社会では、私達が驚かされることが多く、若者たちの感覚と意識にはすでに大きな変化が起きていることを実感できました。

今回、20年を1つの節目と捉え、今までの20年を振り返り、これからの20年に期待を寄せて取り組みました。「男女共生社会」が当たり前の社会と感じられる時がすぐそこまで来ているかもしれません。

蓮田市男女共生情報誌「ぱすてる」第20号を迎えるにあたって



蓮田市男女共生情報誌「ぱすてる」は、平成11年に創刊号を発行して以来、毎年発行し、今回は節目となる第20号を迎えることとなりました。

この情報誌は、当市の男女共同参画施策の一つとして、公募によって選ばれた市民の皆様にご編集いただいています。男女が共生し、すべての人が活躍できる社会づくりの大切さについて、市民の目線でやさしく伝えていただいている情報誌となっています。これまで当情報誌に関わっていただきました多くの市民の皆様へ、心から感謝申し上げます。

蓮田市では、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現に向け、これからも努力して参りますので、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年1月
蓮田市長 中野和信

蓮田市男女共生情報誌『ぱすてる』を振り返って

- 創刊号 「女らしさ、男らしさ」って何だろう
- 第2号 「いきいき働く女と男の役割」
- 第3号 「夫婦共にささえ愛」
- 第4号 「密着まるやか地域づくり」
- 第5号 「家庭の中の男女共生」
- 第6号 「ささえあう未来」
- 第7号 「たのしく生きる」
- 第8号 「たしかなこと」
- 第9号 「思いやりささえあい」
- 第10号 「心ゆたかに生きる」
- 第11号 「キラッと生きる」
- 第12号 特集「蓮田病院さいたま輝き 萩野吟子賞受賞」家族・子育て・十人十色オールOK
- 第13号 特集「がんばってます！消防団」「がんばってます！学校応援団」
- 第14号 特集「残そう蓮田のいいところ」「黒浜沼」「黒浜貝塚」/蓮田散策ほか
- 第15号 「認めあおう、それぞれの生き方」
- 第16号 「蓮田っていいな」「育てようステキな街」
- 第17号 「男の子と女の子の今と昔そして未来へ」
- 第18号 「男女共生を考える～職場のコミュニケーション～」
- 第19号 「男女共生を考える～子ども達が考える男女共生社会とは～」
- 第20号 「男女共生を考える～蓮田スタンダード未来へ向けての発信～」



<https://www.city.hasuda.saitama.jp/jinken/kurashi/jinken/pasuteru.html>

黒浜西中学校防災キャンプ

防災キャンプを体験して

8月26日、私たち(ぱすてる編集員)は、蓮田市立黒浜西中学校で行われた防災キャンプへ参加し、1泊2日で生徒の皆さんと触れ合い防災体験をしました。

西中防災キャンプは2つの視点から実施されています。

- ①地域防災とPTAの役割の検証
- ②中学生の防災に対する知識と意識を育てる教育活動

普通救命講習

災害時に活躍が期待されている中学生が身に付けておきたいスキルの1つとして救急救命があり、いざという時に備えて繰り返し練習することが大切だと考えているそうです。



夕食、朝食作り

ご飯は1度に50人分が作れる災害時に定番のアルファ米、おかずは小学生と中学生が協力して作ったカレーでした。大人に見守られながら子ども達が調理体験をしました。とても美味しくいただきました。



ロープワーク

色々な場面で知っているのと役に立つロープワーク。日頃から使っていないと忘れてしまいます。ボーイスカウト蓮田第3団の皆様のご協力で子ども達と一緒に楽しく学ぶことができました。

宿泊

体育館での宿泊体験でした。物音やトイレの問題だけではなく、着替えや授乳などのプライベートスペース等を確保することが課題となります。皆さんと一緒に考えて克服しなければならなかったと思います。



オーラルケア

災害時、健康に注意することがとても大切です。特に口の中の衛生管理が課題となります。水が使えない事を想定し、液体歯磨きの体験をサンスター株式会社様のご協力で実施しました。とても勉強になりました。



黒浜西中学校防災キャンプ

今回の防災キャンプで
避難所における男女共生について
お話ししていただきました。



黒浜西中学校 校長先生

- ・避難所では性別に限らず配慮が必要です。
- ・体育館内の生活スペースが制限されるので、各家族で間仕切るのは難しいです。
- ・実際の災害だと、この地区の住民だけでなく、帰宅困難者も避難すると予想されます。対応をどうするか考える必要があります。
- ・学校がコミュニティの核になりながら、地域社会とどう関わっていくか？ 共助するには学校と地域のコミュニケーションが大事です。



女子生徒

- ・体育館の中がとにかく暑かったので、汗でべたついてしまった。
- ・着替えるスペースが欲しいけど、避難者でいっぱいだったら難しいのかな、と思う。
- ・簡易トイレを使うのはやっぱり抵抗がある。
- ・寝る時、それぞれ仕切りがあったほうがいいけど、風が通らず暑いのではないかなと思う。
- ・知らない人の近くで寝るのは不安。



保護者

- ・炊き出し、寝床の準備など、中学生がしっかり役割を果たしていて感心しました。
- ・炊き出しでカレー鍋をたくさんのお水で洗ったり、熱湯消毒していました。避難生活では、貴重な水をどう使ったらいいか考えてしまいました。
- ・携帯トイレの練習をしたらよかったです。
- ・この暑さで、もしすし詰め状態だったら、きっと耐えられないと思います。
- ・知らない人、顔見知りのお人の近くで寝るのは相当のストレスだと思います。
- ・避難所にペットを連れてきた場合はどう対処するのだろうか？
- ・生理用品、オムツの処理は？ 臭いが気になります。



保健師

- ・お風呂に入れないのはすごくキツイと思いました。
- ・自分が被災者でも、避難所で職員として働かないといけない。疲れや眠気もあるので正直辛いと思います。
- ・体育館は足音がすごく響くことに驚きました。夜中にトイレに行く 足音が気になりました。
- ・運動マットの寝心地はわりと良かったです。ただ、汗を吸い取らないので起きた時の不快感があります。
- ・障がい者対応は課題がたくさんあると思います。
- ・子ども達が一晩中扇風機にあたっていたので、体調を崩さないか心配でした。
- ・アルファ米で作ったカレーやワカメご飯が美味しかったです。



ばすてる編集員

今回、初めて防災キャンプに参加させていただきました。

救命体験やロープ実習、猛暑の中の炊き出しなど、中学生が真剣に取り組んでいました。炊き出しでは、火起こしや調理など、各自が得意なこと、出来ることを進んでやる。男女共生の自然な姿に感心しました。

体育館で寝るのも初めてでした。持参したヨガマットも硬く、暑さで眠れませんでした。思っていた以上に音が気になりました。自分もトイレに行き辛くなってしまい、自然と水分補給が少なくなりました。汗をたくさんかいたので、汗拭きシートが大活躍でした。あの暑さと疲労感を体験し、実際の長い避難生活を想像せずにはいられませんでした。ある程度、自宅での避難生活ができるように備えが必要だと実感しました。

これからは避難所を知る女性リーダーも必要だと思います。インタビューの中でたびたび、女性や子どもならではの不便な点があげられました。それを気軽に質問できる女性がいたらいいな、と皆さん声を揃えていたのが印象的でした。

避難所での男女共生のあり方のヒントがちりばめられた防災キャンプでした。インタビューにご協力いただいた皆さまありがとうございました。



蓮田市男女共生情報誌「ばすてる」が節目となる第20号の発行となりました。そこで、今までとこれからの男女共生について話し合ってみました。

ばすてる編集員になって思ったこと

男女平等は知ってたけど、男女共生はあまり聞き慣れてなくて、どこがどう違うのかなって。いまだに、時々日常生活の中で男女の区別をしちゃったって思う時があって反省してる。



「ばすてる」をまったく知らず、ゼロから始めさせてもらった感じです。男女共生は日常生活の中の色々なことまで関わってくるんだな、身近なところにあることなんだなという考えに変わってきています。



私がやっていいのかなって思いました。なぜなら、自分は男性と女性を意識するよう教育をされてきたし、結婚してからもそういう風に思ってたから。でも今の子ども達の考えを聞いて、違うんだと思った。



今やることが将来はどうなんだっていう議論だったり…。男女共生の考え方も当たり前のように進歩進化していくはず。逆に言うと、今まで考えていたことが変わってきたり、自分たちの考えが実は全然違ったり。



以前から男女平等という当たり前の社会になって欲しいと思っていた私は、男女共生という聞きなれない言葉に興味を持って「ばすてる」に入りました。皆さんの意見を聞いて、今の日本では、思っていた以上に男女共生って難しい事も改めて勉強しました。



男女共生について

前号で子ども達にインタビューしましたが、今の女の子は何でも自分でやろうという意識が強いですね。



このまま成長していくと、また違った社会になるのかな。そうなると、意識的にこうあるべきだという情報を発信していくこと自体が『何?』って感じるようになっていくのかも。結局のところ、変わらないといけなのはパワハラだ！セクハラだ！と騒がれてしまうような50才以上の年代？世の中で、一番知らなかったのは自分かなという感じ。



それはあるよねー。未だにわからないよ。本当にね（笑）



今は、生徒会長や応援団も女性が増えてますよね。男性社会と言われたようなところでも、女性が活躍してますね。



大学受験の時の「男」「女」を書く欄が無くなったって、ニュースで言っていましたね。確かに必要ないですね。



それは進歩ですね。海外ってもうすでに男女って書かない国もありますよね。



自分の時は家庭科はやらなかったです。今は男子校でも、家庭科で赤ちゃんの沐浴の授業もあるらしいです。



今の子ども達が大人になったら全然変わりますね。



私たち以上の世代の意識を変えるには、どうしたらいいのかを考える方が大変ですね。



私も意識しないとつい「男なんだからやってよ」って言う時があったり。前に比べたら減りましたが、時々子どもに「ばすてるの活動、してるんでしょ？」とかがって注意されてしまう時もあります。（笑）



そうですね、今まで「ばすてる」を20年間も毎年発行して、男女共生に対する意識も大きく変わってきたけど、今でもふと気が付くことや考えることが多い気がする。



今の男女共生のスタンダードはこれからの絶対じゃないと思う。今こうやって私たちが男女共生について考えることが、次の時代に合った新しいスタンダードを生み出していく気がしますね。



女性教育会館とWith You さいたまを視察して

40年も前に「女性教育会館」が建てられたと聞いて驚きました。埼玉県内にこんな国の施設があったんですね。



自然豊かな広大な敷地で、宿泊もできる施設だった。

最近では、全国の学校関係者を集め、研修を行っているようです。全国に男女共同参画の取組が広がっていくとよいですね。



男女共同参画といえば、さいたま新都心の「With You さいたま」も様々なセミナーを開催していると言っていましたよ。



さいたま新都心の駅から近いし図書室や交流スペースもあって、勉強したり、活動するには良い場所だね。

この2つの施設の今後の取組に期待したいですね。



独立行政法人国立女性教育会館（NWEC：ヌエック）

1977年に設立。「男女共同参画社会」の形成を目指した、日本で初めての女性教育に関するナショナルセンター。国内外の女性関連施設等と連携し、さまざまな事業や研修を実施したり、利用者に施設の提供をしています。



<https://www.nwec.jp/facility/center.html>

所在地：埼玉県比企郡嵐山町菅谷728 電話番号：0493-62-6711（代表）

With You さいたま(埼玉県男女共同参画推進センター)



平成14年(2004年)設立。「県民の男女共同参画の取組を支援することを目的とし、各種講座の開催、相談、情報提供などを行っています。交流のためのスペースもあります。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/withyou/>

所在地：埼玉県さいたま市中央区新都心2-2ホテルブリランテ武蔵野3,4階
電話番号：048-601-3111（代表）

エピソード

今回の「ぱすてる」では、編集員自身が「NWEC（ヌエック）」と「With You さいたま」を訪れ、「男女のトイレ」が色分けされていないことに気がつき、いかに今まで、男性は「青」女性は「赤」を当たり前に入れていた自分たちに驚きを感じました。また、中学校の防災キャンプでは、それぞれの視点に立った防災時のあり方について、体験し感じることができました。

今回の取材を通して、私たち、編集員自身の考え方にも変化がみられることを感じました。知らなかったことを「知ること」そして自分なりに「考えること」一人一人の小さな心の変化が、やがて「当たり前」につながっていく。個人は個人の、蓮田は蓮田なりの、スタンダードがそこにはある。

「みんな違って、みんないい。」

いろいろな垣根を取り払って、個人を認め合って、支え合える、そんな未来の「男女共生社会」を想像することができました。

編集後記

「男女共生とは？」をずっと考えながら、取材を通してたくさん気づかされたことがありました。

「ぱすてる」の名前には、創刊当時「一昔前のランドセルのように、男は黒、女は赤と決めつけず、やさしいパステルカラーのようにいろいろな色があっという」という想いが込められていると聞きました。20年前と比べたら男女共生はとても進んできたと思います。理想は高く、誰もがやりたいことを挑戦し、活躍できる社会が近い将来広がっていることを願いたいと思います。

ぱすてる編集員



添野隆行

高沢秀樹

小森豊政

小林謙二

酒井めぐみ

石井文枝

菅野由紀子

石黒さおり

子育てでつながろう
Miniフェスタ
(9月開催)に参加